

*当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（商品先物）／インデックス型
信託期間	2009年2月16日から2022年12月5日まで
運用方針	世界の代表的商品市況を表すUBSブルームバーグCMCI指数WTI原油指数（円換算ベース）に概ね連動し、WTI原油の先物指数の動向を反映する投資成果を目指して運用を行います。
主な運用対象	世界の代表的商品市況を表すUBSブルームバーグCMCI指数のWTI原油指数に価格が連動する上場投資信託証券を含む有価証券を主要投資対象とします。
主な投資制限	・株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益の中から市況動向等を考慮して分配金額を決定します。ただし、分配を行わない場合があります。留保益の運用については特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

UBS原油先物ファンド

第11期 運用報告書（全体版）
決算日 2019年12月5日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「UBS原油先物ファンド」は、去る12月5日に第11期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

UBSアセット・マネジメント株式会社

東京都千代田区大手町1-5-1

大手町ファーストスクエア イーストタワー

<お問い合わせ先>

投信営業部

03-5293-3700

<受付時間>

営業日の午前9時～午後5時、土、日、祝日除く

<http://www.ubs.com/japanfunds>

© UBS 2020. キーシンボル及びUBSの各標章は、UBSの登録又は未登録商標です。UBSは全ての権利を留保します。

最近5期の運用実績

決算期	基準価額	税込み 分配金	期中 騰落率	ベンチマーク UBSブルームバーグ CMCI指数WTI原油指数 (円換算ベース)		債券組入 比率	債券先物 比率	投資信託 証券組入 比率	純資産 総額
				期中 騰落率	期中 騰落率				
7期(2015年12月7日)	円 9,207	円 0	% △39.5	10,531.00	% △38.4	% 99.0	% -	% -	百万円 5,733
8期(2016年12月5日)	8,847	0	△ 3.9	10,287.56	△ 2.3	97.8	-	-	6,846
9期(2017年12月5日)	8,697	0	△ 1.7	10,261.03	△ 0.3	-	-	99.5	3,796
10期(2018年12月5日)	8,957	0	3.0	10,748.12	4.7	-	-	98.8	2,095
11期(2019年12月5日)	9,107	0	1.7	11,138.64	3.6	-	-	99.5	2,157

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 債券先物比率は買建比率-売建比率。

(注3) UBSブルームバーグCMCI指数WTI原油指数(円換算ベース)はUBSブルームバーグCMCI指数のWTI原油指数を委託会社において円換算。ベンチマークは設定日を10,000として指数化。

(注4) 債券組入比率及び投資信託証券組入比率は、当ファンドの追加・解約と有価証券売買の計上タイミングがずれること等により、一時的に100%超の数値となる場合があります。(以下同じ)

当期中の基準価額等の推移

年月日	基準価額		ベンチマーク UBSブルームバーグ CMCI指数WTI原油指数 (円換算ベース)		債券組入 比率	債券先物 比率	投資信託 証券組入 比率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率			
(期首) 2018年12月5日	円 8,957	% -	10,748.12	% -	% -	% -	% 98.8
12月末	7,571	△15.5	9,080.55	△15.5	-	-	98.9
2019年 1月末	8,704	△ 2.8	10,471.59	△ 2.6	-	-	99.1
2月末	9,334	4.2	11,251.30	4.7	-	-	99.4
3月末	9,474	5.8	11,434.51	6.4	-	-	99.9
4月末	10,268	14.6	12,410.84	15.5	-	-	99.8
5月末	9,230	3.0	10,790.58	0.4	-	-	100.0
6月末	9,119	1.8	11,064.04	2.9	-	-	99.3
7月末	9,020	0.7	10,963.69	2.0	-	-	99.4
8月末	8,519	△ 4.9	10,364.45	△ 3.6	-	-	99.7
9月末	8,569	△ 4.3	10,443.29	△ 2.8	-	-	99.8
10月末	8,640	△ 3.5	10,546.73	△ 1.9	-	-	99.8
11月末	9,161	2.3	11,197.87	4.2	-	-	100.0
(期末) 2019年12月5日	9,107	1.7	11,138.64	3.6	-	-	99.5

(注1) 基準価額は1万口当たり。

(注2) 騰落率は期首比です。

(注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率。

(注4) UBSブルームバーグCMCI指数WTI原油指数(円換算ベース)はUBSブルームバーグCMCI指数のWTI原油指数を委託会社において円換算。ベンチマークは設定日を10,000として指数化。

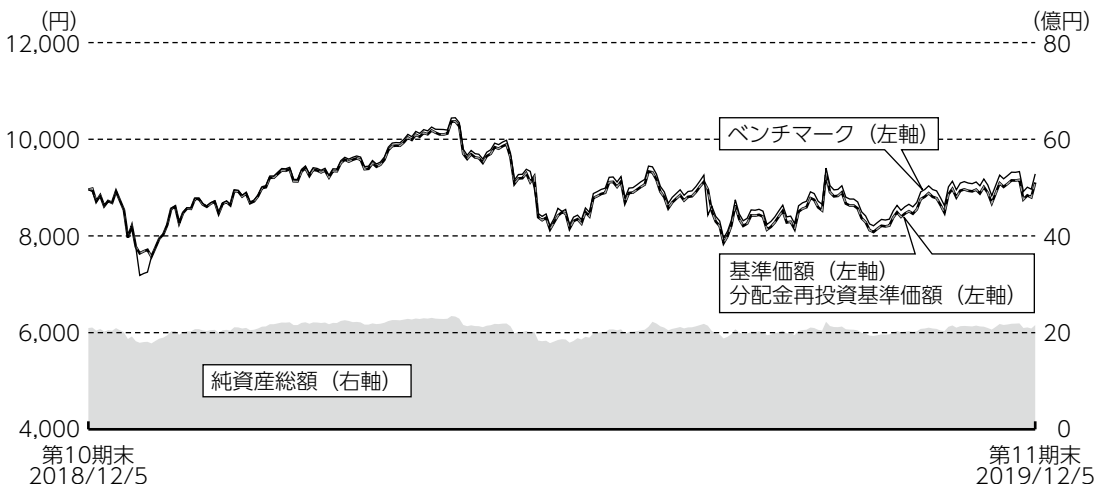
UBSブルームバーグCMCI指数WTI原油指数

UBSブルームバーグCMCI指数WTI原油指数に関する著作権、およびその他知的財産権はUBSおよびBloombergに帰属しており、UBSの許諾なしにデータを複製・頒布・使用等することは禁じられております。UBS AGまたはその関係会社(以下、UBSという)が情報提供のみを目的として作成したものであり、指数構成銘柄への投資を推奨するものではありません。UBSは、情報の正確性および完全性を保証するものではなく、UBSは当指数の利用に伴ういかなる責任も負いません。

運用経過

基準価額等の推移について

(2018年12月5日～2019年12月5日)



第11期首：8,957円

第11期末：9,107円（既払分配金 0円）

騰落率：1.7%（分配金再投資ベース）

- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額およびベンチマークは、期首の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

基準価額は期首比で150円値上がりしました。なお、基準価額の騰落率は+1.7%となりました。

ベンチマークについて

ベンチマークとは、ファンドの運用を行うに当たり、運用目標の基準あるいはパフォーマンスを評価するための基準です。なお、当ファンドのベンチマークは「UBSブルームバーグCMCI指数WTI原油指数」を委託会社において円換算した「UBSブルームバーグCMCI指数WTI原油指数（円換算ベース）」です。また、当ファンドはベンチマークに概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。

※UBSブルームバーグCMCI指数のWTI原油指数は、UBSとBloombergが開発した世界の代表的商品先物指数であるUBSブルームバーグCMCI総合指数におけるWTI原油を独立して指数化したもので、商品市況におけるWTI原油の先物指数動向を反映する指数です。なお、Constant Maturity Commodity Index Family (CMCI: コンスタント・マチュリティ・コモディティ商品指数) に関する著作権、およびその他知的財産権はUBSおよびBloombergに帰属します。

基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は、主にベンチマークが上昇したことにより値上がりしました。ベンチマークが上昇したのは、米ドルベースでのWTI原油先物指数の上昇などのプラス要因が、米ドルの対円での下落のマイナス要因を上回ったことによるものです。

投資環境について

WTI原油市場

当期のUBSブルームバーグCMCI指数WTI原油指数（米ドルベース）は上昇しました。

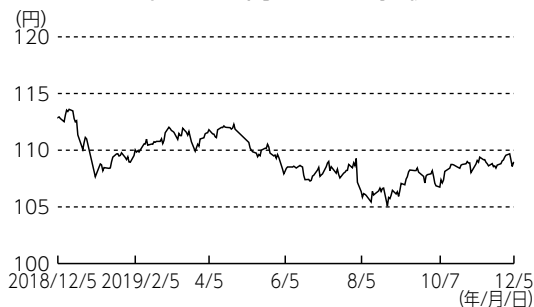
期の序盤、世界経済の減速懸念などを背景に、原油の需要減観測などが嫌気され、2018年末にかけてWTI原油価格は大きく下落しました。しかし、2019年に入ると、石油輸出国機構（OPEC）加盟国に非加盟国の主要産油国を合わせた「OPECプラス」が協調減産を開始したことや、米国がベネズエラ国営石油会社を制裁対象に指定したことを受けて、原油の需給引き締め観測などからWTI原油価格は反発に転じました。その後も、主要産油国の協調減産や、米国政府がイラン産原油の全面禁輸を発表したことなどを背景に、WTI原油価格は4月下旬まで概ね上昇基調を維持しました。しかし、5月以降は、米中貿易摩擦の激化懸念の再燃や、米国の原油在庫増観測の一方で、中東のホルムズ海峡付近で石油タンカーが攻撃され、供給不安の広がりなどの報道に左右される中、WTI原油価格は一進一退の展開となりました。9月中旬、サウジアラビアの石油関連施設が攻撃されたことを受けて、原油供給のひっ迫懸念が生じ、WTI原油価格は急上昇しましたが、想定よりも早い同国の原油生産量の回復観測などから、原油市場は間もなく落ち着きを取り戻しました。期の終盤、OPECプラスによる協調減産延長への期待感などが相場の支えとなり、WTI原油価格は概ね底堅く推移して、期末を迎えました。

なお、当ファンドのベンチマークであるUBSブルームバーグCMCI指数WTI原油指数（円換算ベース）は、円高・米ドル安の影響で当該指数の上げ幅を幾分縮小したものの、期首比で上昇しました。

米ドル／円相場

為替相場（米ドル／円）は、米ドル安・円高となりました。期初、112円台後半でスタートした米ドル／円相場は、世界経済の減速懸念の広がりや、世界的な株安の進行などを背景に、リスク回避の円買いが強まり、米ドルは対円で大きく下落しました。しかし、2019年1月、米雇用統計の改善や米中通商協議の進展期待などから、米ドルは対円で反発に転じました。その後も、米国や中国の経済指標の好転などが下支えとなり、米ドルは4月下旬あたりまで概ね上昇基調で推移しました。しかし5月に入り、米中貿易摩擦の再燃などを受けて、市場でリスク回避姿勢が強まり、米ドルは再び下落に転じました。その後、米連邦準備制度理事会（FRB）の利下げ観測などを背景に、米ドルは下げ足を強めました。9月以降は、米中通商協議に対する前向きな見方が広がったことや、米長期金利の上昇などを背景に、米ドルは対円で徐々に値を戻しましたが、結局、108円台後半で期末を迎えました。

米ドル／円レートの推移



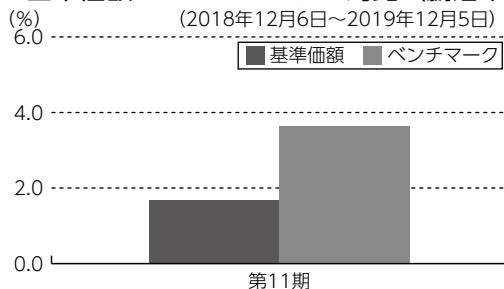
ポートフォリオについて

上場投資信託証券を高位に組入れ、ベンチマークに概ね連動する投資成果を目指して運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当期中の騰落率は、基準価額の+1.7%に対してベンチマークが+3.6%となり、基準価額の騰落率はベンチマークの騰落率を2.0%下回りました。基準価額の騰落率がベンチマークの騰落率を下回った主な要因は、当ファンドで流動性確保のために資産の一部を短期金融資産で運用したこと、設定・解約に伴う資金の出入りと上場投資信託証券の売買のタイミングがずれたこと、当ファンドで信託報酬・信託財産の管理に要する費用（保管費用、租税等を含みます。）を負担したことなどです。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金再投資ベース

分配金について

当期は、市況動向等を勘案し分配は行いませんでした。なお、分配にあてなかった利益につきましては、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳 (1万口当たり・税引前)

項目	第11期
	2018年12月6日~2019年12月5日
当期分配金	-円
(対基準価額比率)	(- %)
当期の収益	-円
当期の収益以外	-円
翌期繰越分配対象額	4,466円

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は、「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3) 「当期の収益」、「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

今後の運用方針

投資環境の見通し

原油価格に影響を及ぼす要因として、世界各国のマクロ指標や景気動向、原油の需給、為替の変動、地政学的リスクといった政治情勢などを引き続き注視していく方針です。足元、米中通商交渉においては、「第1段階」の合意に至ったものの、これから先は長期戦が予想されることなどから、政治面で先行きに波乱のリスクが残されているとされます。こうしたリスク要因が市場に及ぼす影響に留意してまいります。

今後の運用方針

今後も引き続き上場投資信託証券を高位に組入れ、ベンチマークに概ね連動する投資成果を目指して運用を行います。

1万口当たりの費用明細

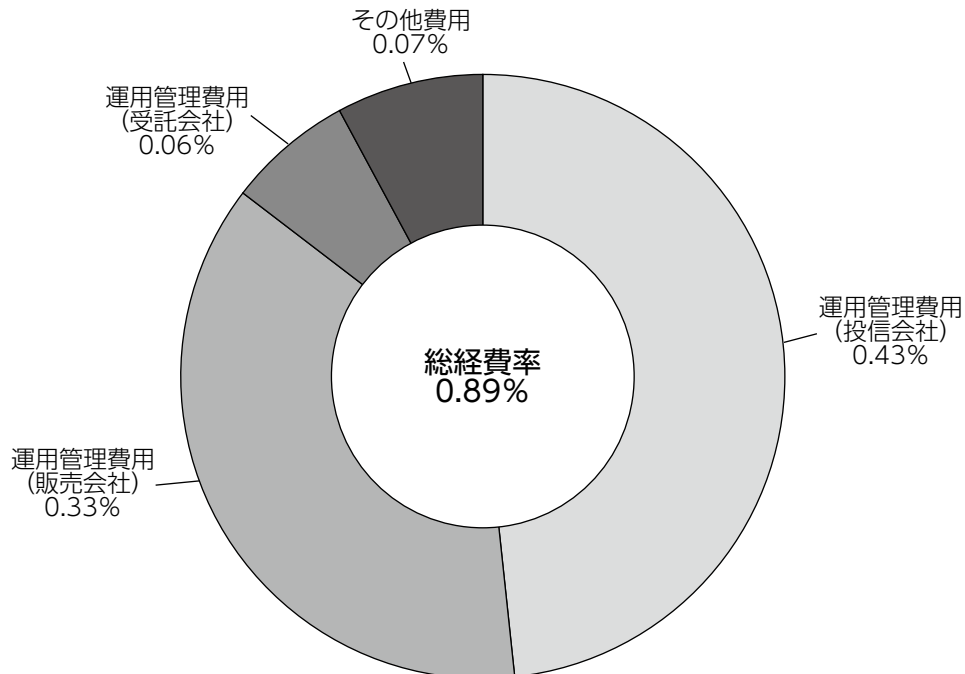
項目	当期 2018/12/6~2019/12/5		項目の概要
	金額	比率	
信託報酬	73円	0.814%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額（月末値の平均）は8,967円です。
（投信会社）	(38)	(0.429)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(30)	(0.330)	運用報告書等各種書類の交付、口座内でのファンドに係る管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(5)	(0.055)	運用財産の管理、運用指図実行等の対価
売買委託手数料	3	0.030	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（投資信託証券）	(3)	(0.030)	投資信託証券を取引所で売買する際に売買仲介人に支払う手数料
その他費用	6	0.065	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(3)	(0.029)	海外保管銀行等に支払う海外資産等の保管・送金・受渡等に係る費用
（監査費用）	(2)	(0.020)	監査法人等に支払うファンド監査に係る費用
（印刷費用等）	(2)	(0.013)	法定開示書類作成の際に業者に支払う作成・印刷・交付等に係る費用（EDINET含む）等
（その他）	(0)	(0.003)	受益権の管理事務に関連する費用等
合計	82	0.909	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報) 総経費率



(注1) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注2) 各比率は、年率換算した値です。

(注3) 上記の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.89%です。

期中の売買及び取引の状況 (自 2018年12月6日 至 2019年12月5日)

投資信託証券

	買		付		売		付	
	口	数	金	額	口	数	金	額
外国								
スイス								
UBS ETF (CH) - CMCI Oil SF (USD)		□		千米ドル		□		千米ドル
		93,376		2,565		86,579		2,480
小計証券数・金額		93,376		2,565		86,579		2,480

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

主要な売買銘柄 (自 2018年12月6日 至 2019年12月5日)

投資信託証券

買			付			売			付		
銘	柄	口	数	金	額	銘	柄	口	数	金	額
UBS ETF (CH) - CMCI Oil SF (USD)(スイス)		□		千円		UBS ETF (CH) - CMCI Oil SF (USD)(スイス)		□		千円	
		93,376		279,106				86,579		273,296	

(注) 金額は受け渡し代金。(償還分は含まれておりません。)

利害関係人等との取引状況等 (自 2018年12月6日 至 2019年12月5日)

(1) 期中の利害関係人等との取引状況

区 分	買付額等		うち利害関係人等との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等		うち利害関係人等との取引状況D	$\frac{D}{C}$		
	A				C					
投資信託証券	百万円	279	百万円	30	10.8	百万円	273	百万円	90	33.0

(2) 期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人等への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額(A)	619千円
うち利害関係人への支払額(B)	145千円
(B)／(A)	23.5%

(注) 利害関係人等とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人等であり、当期における当ファンドに係る利害関係人等とはユービーエス・エイ・ジー（銀行）です。

組入資産明細表 (2019年12月5日現在)

外国投資信託証券

銘柄	期首 □数	当 期 末			
		□数	評 価 額		比 率
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(スイス) UBS ETF (CH) - CMCI Oil SF (USD)	□ 687,392	□ 694,189	千米ドル 19,709	千円 2,146,324	% 99.5
合 計	□数・金額 687,392	□数 694,189	19,709	2,146,324	
	銘柄数 <比率>	1	1	-	<99.5%>

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) < >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注3) □数・評価額の単位未満は切り捨て。

(注4) -印は組み入れなし。

投資信託財産の構成

(2019年12月5日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投 資 信 託 受 益 証 券	千円 2,146,324	% 98.1
コ ー ル ・ オ ー ン 等 、 そ の 他	41,387	1.9
投 資 信 託 財 産 総 額	2,187,711	100.0

(注1) 金額の単位未満は切り捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産 (2,159,313千円) の投資信託財産総額 (2,187,711千円) に対する比率は98.7%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1米ドル=108.90円です。

資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2019年12月5日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	2,200,698,659円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	9,487,575
投資信託受益証券(評価額)	2,146,324,955
未 収 入 金	44,886,129
(B) 負 債	43,670,438
未 払 金	12,987,051
未 払 解 約 金	22,073,503
未 払 信 託 報 酬	8,236,763
未 払 利 息	80
そ の 他 未 払 費 用	373,041
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	2,157,028,221
元 本	2,368,517,564
次 期 繰 越 損 益 金	△ 211,489,343
(D) 受 益 権 総 口 数	2,368,517,564口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,107円

〈注記事項〉

期首元本額	2,339,539,810円
期中追加設定元本額	484,955,248円
期中一部解約元本額	455,977,494円
1口当たり純資産額	0.9107円

純資産総額が元本を下回っており、その差額は211,489,343円です。

損益の状況

(自2018年12月6日 至2019年12月5日)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 17,257円
支 払 利 息	△ 17,257
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	59,075,732
売 買 益	141,984,614
売 買 損	△ 82,908,882
(C) 信 託 報 酬 等	△ 18,003,069
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	41,055,406
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 203,447,013
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 49,097,736
(配 当 等 相 当 額)	(1,054,098,358)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△1,103,196,094)
(G) 計 (D+E+F)	△ 211,489,343
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金(G+H)	△ 211,489,343
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 49,097,736
(配 当 等 相 当 額)	(1,054,098,358)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△1,103,196,094)
分 配 準 備 積 立 金	3,862,150
繰 越 損 益 金	△ 166,253,757

- (注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
- (注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注4) 計算期間末における費用控除後の配当等収益 (0円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0円)、信託約款に規定する収益調整金 (1,054,098,358円) および分配準備積立金 (3,862,150円) より分配対象収益は1,057,960,508円 (10,000口当たり4,466円) ですが、分配を行っておりません。

〈約款変更のお知らせ〉

信用リスク集中回避のための投資制限を追加するため、ファンドの信託約款に所要の変更を行いました。
(約款変更実施日：2019年3月2日)